

国際ロータリー第 2700 地区大会 (12 日) RI 会長代理 ビチャイ・ラタクル元 RI
会長 講演 (翻訳責任者 廣畑 富雄)

演題：ロータリーの存在意義は？

穴井元昭ガバナー、仲間であるロータリアンの皆様

ロン・バートン RI 会長は、素晴らしい先見性と誠実さと品位とを備えた方であり、その方から指名を受け、ここに立ってお話しするのを大変光栄に思います。

ロン・バートン RI 会長とその令夫人ジェタさんがこの大会に出席したいと願っておられる、その事に疑いはありません。特に、昨年 1 月にサンディエゴでの 1 週間、穴井ガバナーとの友情を再現したいと願っておられるでしょう。

これまでのすべての RI 会長と同様に、ロン・バートン会長と穴井ガバナーは、良いことをするためにロータリーを一層実行力のあるものに改め、「ロータリーを実践し みんなに豊かな人生を」を実現するべく、大変努めてこられました。

今年度が終わるまでに、もう残りが 3 ヶ月足らずです。

この 1 年は、私達ロータリアンすべてにとり、大変満足できる年であったと思います。ですから、たとえ短時間でも、ロン・バートン会長が皆さんとご一緒出来たらと考えるのはごく自然なことでしょう。

しかし、世界にロータリーの地区は 500 以上あり、ロン・バートン会長がすべての地区大会に出席し、皆さんにお礼を申し上げるのは不可能です。しかしロン・バートン会長が、常に第 2700 地区に対して心からの愛情を持っておられることは間違いありません。

私はロータリアンになって 56 年になります。60 年以上、時には 70 年以上もロータリアンである会員もいらっしゃるでしょう。しかし、しばしば疑問が湧いてきます。「なぜロータリーがあるのか?」「なぜロータリーに時間を使うのか?」と。

私は、自分の信念と経験により「ロータリーは人々のために役立っている」と言えます。

これは、「良い事」の評価なのです。ロータリーは、相互理解、交流、善意、平和、奉仕、に役立ち、人々の不足や苦難を和らげるのです。

ロータリーについて、その目的、その未来、その効果についての確信がなかったなら、私は自分の人生の 1 年、あるいは人生の僅かの部分でさえ、ロータリーに捧げることはなかったでしょう。この事は、私が 56 年間にわたり、ロータリーと密接に接触してきたことや、世界中を巡って見て、皆さんにはっきり証言できるのです。

後に国際ロータリーに知れわたるのですが、私が 50 人以上のロータリアンと共に経験した、悲しい事件があります。私の国のタイで起きた事件で、ポリオ根絶運動の、全国ワクチン一斉投与デーでの出来事です。

私達は、ポリオプラス計画が多額の費用を要することを知っています。実際、この恐るべき病気を完全にしかもできるだけ早く根絶するための運動に、世界中のロータリアンは 10 億ドル（1000 億円）以上も集めました。

しかし、ロータリアンが提供した奉仕はただ単にお金だけではなく、時間、労力、さらには生命さえも捧げたのです。

まだ 35 歳の若いロータリアンの、ヨンチャイ・スラパンタナコーンさんは、妻と 2 人の子供がいました。彼はバンコック市からあまり遠くない小さな町で、小さな自動車部品の販売店を開いていました。

彼の収入は乏しく、家計を支えるのがやっとでしたが、ロータリークラブの会員でした。

彼は、ポール ハリス・フェローなどになったことはありません。

それでも、ポリオプラス計画のことに、常に関心を寄せていました。しかし、彼の収入が乏しいので、ポリオプラス計画への献金は出来ませんでした。ですが、彼は自分の時間、能力、労力を捧げて、その地区を募金して回りました。彼は自分のクラブや、近隣のクラブのロータリアンにも声をかけ、全国ワクチン一斉投与デーに、毎回参加するよう、働きかけました。

ポリオ撲滅運動の小さな部分を受け持ちたいという彼の決意は大変強く、彼は毎日多くのクラブを訪問して、ロータリアン達がポリオ基金に寄付をすることや、全国ワクチン一斉投与デーに毎回参加するように勧めました。

それは 4 月の或る蒸し暑い日のことでした。ヨンチャイさんは、妻と娘と友人一人をつれ、今回も全国ワクチン一斉接種デーに出かけました。家族と友人と一緒に、貴重なポリオワクチン液を乗せた小型の平底の船で出かけたのです。

一日中、曲がりくねった水路沿いの、多くの村々を訪ねました。親たちが子供を連れて、ポリオワクチンの投与を受けるべく待っていました。これは、ヨンチャイさんにとって、きつい一日の仕事でした。 体は全身汗びっしょりで、埃で汚れていました。

日が沈みかけ、家に帰る時間が来ました。

ところがその翌日に、農民たちが土地を耕せるよう、その水路の水門が突然開けられました。ヨンチャイさんは、水の流れが彼と家族に被害を与えるほど強いとは、知らなかったのです。彼は水流に逆らって櫂を漕ぎ続けました。それで、その小さな平底船が、転覆してしまったのです！ 彼は残っていたポリオワクチン液を片手に、7 歳の娘をもう一方の手にかかえ、岸边まで泳いで行き、さらに水中に沈みかけた妻を救うため、再び戻って来ました。さらに、友人のことも心配でした。それで再び強い水流に逆らって、水路の中に進み、友人がやっとのことで岸边に這い上

がるのを見ました。

友人は無事でした。

しかし、可哀相なヨンチャイさんは、余りに疲れ切って、自分の体を支える力がありませんでした。岸には彼を助ける人は誰もいない。ヨンチャイさんは溺れてしまったのです。太陽がまさに西の水平線に沈みかけた頃、彼は水面下に沈んで行ったのです。

私はその翌日、ヨンチャイさんの葬儀に参列しました。彼の奥さん、娘さん、友人にお会いしました。「世界のために良いことをしよう」として、その生涯を捧げた奉仕の精神に富んだ人の行為により、その人たち皆が生き残ったのです。

ヨンチャイさんは、自分の若い家族に多くを残すことは出来なかったが、ある大事な遺産を残しました。ロータリーの奉仕は、募金だけではない。ロータリーの奉仕は、決して財布の奉仕に限られるのではない。ロータリーの本当の奉仕は、「他人に対して思いやりを持つこと、救いの手をさしのべること」である、という遺産です。

私達は、この死の必然性について真剣に向き合うべきだと思います。これは劇的な事件ですが決して忘れてはならないのです。

そうです。ヨンチャイさんは勇気と決意を持っていました。決意といえば、次の事を思い出します。ずっと以前のことですが、バンコクのある小さなロータリークラブが、タイの最も大きなスラム地域の子供達の教育のために非常に多くのお金と時間を使いました。

ポーンチプさんは、子供の時からずっと多くの夢と野心を持っています。スラムに生まれ―――貧困に打ちのめされている家族で、彼女の両親は頑張り、一生懸命に働かねばなりません。両親の収入は 2 人分を合わせても 1 日にほんの 10 ドルで、家族全部をようやく食べさせるだけで、そして、ポーンチプさんだけでなく、彼女の兄と姉の教育のために、いくばくかを貯金するのがやっとのことでした。

よその家のお母さんやお父さんは、自分の子供のために学校の制服や学用品を買うのにショッピングモールに行くのに、ポーンチプさんの母親は、まず質屋に行く事を考えました。

この貧窮した家族は、生活のために僅かな収入を得るために。ついには、彼女の兄や姉は 9 年の教育を終えた段階で学校を辞めて就職を余儀なくされました。この家族にとっては非常に苦しい時期でしたが、ポーンチプさんはその状況をよく理解していました。しかし、ポーンチプさんは末っ子なので、勉強を辞めないように言われていました。

ロータリークラブが関与して、スラムの 100 人以上の子供達と一緒に、ポーンチプさんも奨学金がもらえる事になりました。彼女の両親は、教育を受ける重要性和それが家族の生活水準を改善させるのに大変に役立つことをいつも彼女に教えて

いました。

矢張り、そうでした。

亡くなったヨンチャイさんと同じように、彼女の勉学への強い決意が、いい機会に恵まれ、また、ほかの人から彼女に与えられた犠牲によって、彼女の人生が大きく変わったのです。

勉学をするための毎年の教育ローンやスラム地域のロータリークラブからの奨学金が必要な、経済的に恵まれない少女から、ポーンチプさんは今ではバンコク市の最大のスラム出身の最初の博士課程修了者となりました。

彼女の優秀な成績により、王室黄金記念P.H.Dプログラムからの権威ある奨学金が授与されました。この奨学金によって、米国のジョン・ホプキンス病院でのインターンシッププログラムをさらに1年履修することが出来ます。

ポーンチプさんは「私は科学が好きです」「現在、ナノテクノロジーを用いて、病気の治療の際により少ない量の薬物で病気をより効果的に治すことが出来ることに興味を持っています。そしていつの日か、私の知識によって、多くの病人の状態を改善し、命を救う事が出来るようになることを希望しています」と言っています。

ポーンチプさんの勉学の勝利には、いい機会が必要であったことは間違いありません。彼女が最近私に言いました。いい機会は一寸した幸運以上のものです。いい機会は私達の成功を作り上げる材料です。そして、ロータリアンにとっていい機会は幸運ではなく、ロータリーを実践し みんなに豊かな人生を、を実行するいい機会です。

ロータリアンの皆さん、ロータリーについて考えてみましょう。最近、国際ロータリーからの要求が、クラブ運営にとり重荷になりつつあると感じます。私は強く感じるのですが、ガバナーに課せられる仕事、そして、ガバナーを通して（地区の）クラブに課せられる仕事は、殆どフルタイムの仕事に相当するほどです。

その結果、時間の制約により、会員間の友情が妨げられ、クラブへの出席が妨げられる、職業分類の原則の適用が妨げられたり、無視されたりする、そしてロータリー情報の不足が生じる、等々です。

この事は、残念な結果をもたらしました。世界の多くのクラブが、閉鎖されました。われわれ自身の行為、つまりロータリアンとしての資格を無視し、好い加減にしている事のためにです。

もしロータリーが、他の奉仕団体や慈善クラブと同じであれば、若い実業家や専門職の人達を、ロータリーに迎え入れる、そういう夢が実現するのでしょうか？

実現するとはとても思えません。

さらに思うのですが、毎年多くの新しいプログラムや、新しい重点事項が掲げら

れ、その結果R I事務局に次々に職員が増やされる。理事会や規定審議会により、新しい規則、規制、クラブが守るべき新しい型が作られる。ロータリーは、今や巨大な官僚組織になりました。

最近の強調事項の一つは、「公共イメージの向上」です。現在、国際ロータリー「公共イメージコーディネーター」まであります！ そのコーディネーターが、どうやってロータリーに、良い印象を持ってもらう、ことが可能なのでしょうか？ 私には全く理解できません。

会員をもっともっと増やしたい、そのために国際ロータリーは、長年にわたり、国際ロータリー会員増強コーディネーターを置きました。このプログラムに多額の費用を使いましたが、数年後にはその全構想が崩壊しました。その理由は、私達が過去に厳格に守ってきた手続きを通して進む、そうでないと、新会員の補充は、意味をなさないからです。

私は、奉仕こそが良いイメージを与えうるものだと思います。

私達が何をするか、あるいは何をしないか、それにより、ロータリーが評価されるのです。それにより、良いイメージが得られるのです。もし、私達がよく奉仕すれば、人々から尊敬されるイメージが得られる。私達のために奉仕してくれる人は誰もいない。銀の器の上にロータリーのイメージを盛り付けることのできる人は誰もいません。私たちはそのために努力すべきです。奉仕は私たち自身でしなければならない。

私の意見として、ロータリーは奉仕です。奉仕とは小切手を切る事でもなく、献金する事でもない。慈善団体となることは、決してロータリーの目的ではない。

奉仕とは、時間を作り、自分自身を与えることです。

だから、ロータリーの精神は、単純であることがお分かりでしょう。だが、ロータリーのプログラムや、種々の活動が、どんどん複雑で大規模になって行くと、私達は、奉仕の精神を忘れて行くのです。

さて皆さん！「超我の奉仕」の理念と精神に対する私達の献身を、新たにしようではありませんか。友愛の精神は、この上に成り立っているのです。

皆さん！ 最善を尽くして奉仕をする、その責任を、我々一人一人が分かち合いましょう。そのことが、将来に向かって、ロータリーを軌道にのせ、順調に進ませる、最善で唯一の方法だと信じます。